

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(5)-ア	研究開発・交流の基盤づくり	施策	① 大学院大学の周辺環境及び研究開発拠点の整備	
			施策の小項目名	○研究機関の誘致、企業集積拠点の整備	
主な取組	沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター機器整備事業			実施計画記載頁	226
対応する主な課題	②今後、増大が見込まれる研究開発型ベンチャー企業等が入居するインキュベート施設や、国際的な共同研究、産学官による共同研究等を行うための研究施設の充実を図るとともに、研究開発型企業の成長に向けた支援を行う必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センターに最先端の研究機器等の整備を行い、バイオ関連企業等の研究開発及び事業化を支援するとともに、県内におけるバイオ関連企業の集積を促進する。						
実施主体		沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センターにおける研究機器等の更新整備				
担当部課【連絡先】		商工労働部ものづくり振興課 【098-866-2337】				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
								当初予算額	主な財源	
	一括交付金(ハード)		128,207	333,466	0	0	0	0		○H30年度: 機器利用者のニーズ把握及び機器更新の必要性の検証を行った。 ○R元(H31)年度: 機器利用者のニーズ把握及び機器更新の必要性の検証を行う。
										○H30年度: ○R元(H31)年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センターの機器整備件数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	18	15		0	0	0	100.0%	0	順調	機器利用者のニーズ把握及び更なる機器更新の必要性の検証を行った。
活動指標名	—				H30年度					
実績値										
活動指標名					H30年度					
実績値								進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	今年度は、機器利用者のニーズ把握及び機器更新の必要性の検証を行った結果、既存の機器の状態が入居企業の研究開発に支障はないことが把握できた。そのため費用対効果の面から機器の更新整備は当面必要ないと判断した。	
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度 of 取組改善案						反映状況				
①入居企業、外部利用者及び新たに誘致する企業のニーズも考慮し、企業の研究内容が効果的、効率的に行えるような性能のよい機器整備について検討し、知的・産業クラスターの形成に取り組む。						①ニーズの把握は随時行っているが、研究機器が高額である為、購入については、耐用年数、費用対効果等を考慮しつつ検討する必要がある。				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

・研究機器自体が高額であり、企業ニーズが多様で変化することから、機器の選定に苦慮している。

##### ○外部環境の変化

・入居者のニーズに加え、今後のニーズの変化も視野に入れインキュベート施設として整備すべき機器について検討する必要がある。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・バイオベンチャーは、様々な研究を行っており、研究機器についても、その研究内容によって異なってくるため、共用機器として汎用性が高いものについて、入居企業以外の外部利用者からのニーズの把握も行う必要がある。

・入居者アンケートやバイオ関連企業へのヒアリング等を行い、ニーズを把握すると共に、専門家等の意見を聞き、性能及び汎用性の高い機器の導入の可否を判断する。



### 4 取組の改善案(Action)

・研究機器は高額である為、入居企業やセンターの外部利用者を始めとしたバイオ関連企業のニーズや専門家等の意見を聞きながら、導入の可否を判断する。